
今 日 の 力

2026年2月16日～2月22日

翻訳 藤岡 伸子
村越 克子
野口 恵美子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

2月16日(月)

イエス様の涙

聖書朗読 ヨハネの福音書 11:28～37

イエスは涙を流された。

ヨハネ 11:35

『イエスは涙を流された。』聖書で最も短い聖句です。私たちが最初に覚える聖句であることが多いですが、その意義はその短さとは比べものにならないほど深いものです。それはイエス様が私たちを気に掛けてくださっていることを思い出させてくれるものです。

ラザロの死に関する今日の聖書箇所には、真の悲しみが描かれています。現代でも悲劇は起ります。交通事故、無意味な暴力、聞くのも辛い診断。ヨハネ 11章の嘆く人々のように、私たちは時に問います。「神はこの悲劇を防げなかったのか。」「なぜ私たちにこんなことが起きたのか。」こうした問いは魂を動搖させ、信仰を碎くものです。

しかし、この『イエスは涙を流された。』という力強い1節は、神様が遠く離れた存在ではない事を確信させてくれるものです。神様は私たちが悲しみに暮れる時共におられます。イエス様はラザロがすぐに甦ることを知りながら泣かれました。なぜでしょう。愛する者の痛みをご自身で感じてくださったからです。今もなおそうしてくださっています。

悲劇に襲われた時、思い出してください。神様は見ておられます。神様は気に掛けておられます。そして神様には今ある痛みを超えたご計画があるのです。永遠のいのちの希望は単なる願望ではありません。それは、今このときの悲しみが物語の終わりではないということを約束してくれるものです。

讃美歌 255 灰と塵の中にひれふし

祈り 慈愛に満ちたお父様、悲しみによって押し潰されそうになった時、あなた様が近くにおられることを思い出させてください。イエス様の涙と、永遠の喜びの約束に感謝します。イエス様の御名によって。アーメン。

テキサス州 フォート・ワース / ロバート P・ミュレン

2月17日(火)

光のうちに歩む

聖書朗読 ヨハネの福音書 12:35~50

イエスは彼らに言われた。「まだしばらくの間、光はあなたがたの間にあります。やみがあなたがたを襲うことのないように、あなたがたは、光がある間に歩きなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこに行くのかわかりません。」
ヨハネ 12:35

イエス様に従うことを、「光の中を歩む」とよく表現されますが、私がその真の意味を理解したのは、息子たちとのキャンプ旅行がきっかけでした。

一日の活動を終え、私たちはキャンプファイヤーをするため森の奥深くへ歩いていきました。歌を歌い、語り合い、炎の輝きを楽しんだ後、懐中電灯を点けて歩いてテントに戻る時間となりました。焚き火の温かな光から離れるにつれ、私たちは森の深い闇へと足を踏み入れて行きました。懐中電灯の細い光は、ほんの数歩先を照らすだけでした。光が届かない先に何が潜んでいるか、考えることすら怖かったのですが、皆で手をつなぎ、一歩ずつゆっくりとキャンプ場へ戻りました。

後になって、これが靈的に光の中を歩むということなのだと気づかされました。道全体を見る必要はありません。イエス様が道を導いてくださると信頼して、次の歩みを進めるのに十分な光さえあればよいのです。従順に、一步、また一步進んでいきます。やがて、主は私を安全に主の家へと導いてくださるのです。

讃美歌 87 めぐみのひかりは わがゆきなやむ

祈り 主よ、私の道の光となってください感謝します。あなた様を信頼し、信仰によって一步一步、歩むことができますように。共に歩む人々を与えてくださったことも感謝します。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



ノースカロライナ州 ダーラム／パット・ダジェット

2月18日(水)

別れの際のイエス様からの贈り物、平安

聖書朗読 ヨハネの福音書 14:25~27, 20:19~21

わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。ヨハネ 14:27

十字架の前の最後の日々、イエス様は、弟子たちに戦いの計画とか、長い課題リストなどを残したりはなさいませんでした。イエス様は弟子たちに「平安」という言葉を残されました。不安な心と混乱した疑問で満ちた部屋の中で、イエス様は静かにこう話されました。『わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます』と。イエス様は、弟子たちの世界がひっくり返されようとしていることをご存じでしたが、それでも、イエス様が残されたメッセージは平安でした。

同じ言葉がイエス様の復活後に再び響きました。十字架の苦しみの後、弟子たちが恐怖に怯えて隠れていた時、イエス様が来られ言われました。『平安があなたがたにあるように。』(20:19)弟子たちを叱責されることも、逃げ隠れしている経緯を思い出せることもありませんでした。ただ平安とだけ言われました。

イエス様は楽な人生を約束したわけではありません。しかし、理解できないほど深い、感情に左右されない、恐怖よりも強い平安を約束してくださいました。それは状況次第のものではなく、イエス様のご存在とイエス様を知ることに根ざすものです。

人生が脆く未完成で不公平だと感じる時、平安でいられるものでしょうか。イエス様は「できる」とおっしゃいます。なぜなら、イエス様の平安はこの世のものではなく、イエス様ご自身のものだからです。今日、私たちがどんなことに直面しようとも、『平安があなたがたにあるように。』というお言葉をもう一度はっきりと、自分に向けた言葉として聞くことができますように。それは、イエス様からのお饗別であり、復活されたことを示す挨拶でした。そして、今でも私たちのものです。

讃美歌 520 しづけき河のきしへを

祈り 主イエス様。あなたの平安を与えてくださりありがとうございます。イエス様のお名前において。アーメン。

ジョージア州 アトランタ／ジェシカ・ブリッジポート

2月19日(木)

目的があつて選ばれた

聖書朗読 使徒の働き 1:12~26

しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自身の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

I ペテロ 2:9

幼稚園の頃の出来事でよく覚えていることがあります。キックボールをするためにクラスの皆が園庭に出て並びます。キャプテンが、自分のチームのメンバーを一人ずつ選んでいきます。私は一番には選ばれませんでしたが、最後まで残ってもいませんでした。小柄でしたが足は速かったので選んでもらえました。ともかく、私はちゃんと目的があつて選ばれました。

神様がイスラエルの民を選ばれたのは、彼らが強大で豊かで完璧であったからではなく、彼らを愛されたからです。(申命記 7:7~8)彼らを通して、イエス様が世界を救うために来られることになりました。神様は目的を持って、その目的に沿ってイスラエルの民をお選びになったのです。

ペテロは、120名ほどの兄弟たちが集まる中に立って、ユダの使徒職を埋める者を選ぶと言い、ヨセフとマッテヤのふたりが立てられました。人々は祈り、くじを引き、マッテヤが選ばれ、全世界に出て行きイエス様の教えを宣べ伝える11人の使徒に加えられました。マッテヤは目的があつて選ばれたのです。

今、あなたと私は同じような状況にあります。私たちは『全世界に出て行き』、人々にイエス様を宣べ伝えるために、神様に召され、選ばれています。それは、私たちが力強く豊かで完璧だからではなく、私たちを召してくださった神様をほめたたえるために、私たちが選ばれたからです。私たちは、神様の福音を全世界に宣べ伝えるという目的のために、神様のみこころによって選ばれたのです。

讃美歌 516 主イエスを知りたる

祈り お父様。目的をもって、みこころによって私を選んでください感謝です。あなたが選んでくださったことに従順に「はい」とお答えし、神様の目的を毎日、誠実に果たすことができますように。イエス様のお名前において。アーメン。

テキサス州 アマリロ / ベン・メレネス

2月20日(金)

成長しましょう

聖書朗読 使徒の働き 2:42~47

そして、毎日、宮や家々で教え、イエスがキリストであることを宣べ伝え続けた。

使徒 5:42

使徒の働き第2章に書かれている教会はクリスチヤンの最初の共同体を形成し、『いっさいの物を共有にして』いました。(44節)実際、彼らがどのようにしていったのかを見てみましょう。

初期の教会はイエス様の十字架という厳しい試練の中で形成され、三千人の尊い人々が、死、埋葬、バプテスマによる復活を経験しました。彼らは使徒たちの教えを堅く守り、学び、交わり、食事、主の食卓、祈りを行ううちに、すぐに共同体意識を持つようになりました。

彼らは神様の大きな御力に畏敬の念を抱いていました。それが彼らを動かし、ともに時間を過ごし、皆の必要が満たされるようにしました。毎日集まり、神を賛美し、礼拝し、交わりをしました。共同体が人々の心を引きつけたのは、すべての民に好意を持たれ、主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださったからでした。

私たちの教会共同体は、この初期の教会の例を反映しているでしょうか。人生を変える神様の御力に畏敬の念を抱き、神様を礼拝し、賛美し、信仰を同じくする兄弟姉妹と交わり、困っている人たちを気遣っているでしょうか。私たちは、定期的な祈りと聖書の学びによって養われ成長しているでしょうか。もしそうなら、私たちは本当にめぐまれています！

讃美歌第二編 12 主の教えのべ伝え

祈り 親愛なる神様。私たちの心を喜びと讃美と礼拝で満たしてください。物質的な必要を満たすことができるよう、そして、靈的な真理を周りの人たちと分かち合うができるようにしてください。私たちの努力が成長へ導かれますように。イエス様のお名前において。アーメン。

アリゾナ州 ギルバート / ケン・デビッドソン Jr



2月21日(土)

あなたにはニックネームがありますか

聖書朗読 使徒の働き 4:32~37

キプロス生まれのレビ人で、使徒たちによってバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフも、畑をもっていたので、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。
使徒 4:36~37

ニックネームは大概人の特徴を捉えた言葉で表わします。例えば、赤毛だったら「へい、レッド」とか、細身だったら「スリム、調子はどう」とか、左利きだったら「ハイ、サウスポー」などです。

今日の聖書箇所に出て来る人物の名前はヨセフでしたが、あなたはその名前で彼を知らないでしょう。あなたは彼のニックネームのバルナバで知っています。

『使徒たちによってバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフも』とあるように、それが使徒たちが付けた彼の別名です。

新約聖書の中でバルナバが出て来る箇所では必ず彼は誰かを助けていたり、誰かのために立ち上がりながら、誰かを励ましたりしています。「ヨセフは素晴らしい慰め人だから、今から彼をバルナバと呼ぶことにしよう」と使徒たちは考えたのでしょう。

もし、あなたが自分に最も当てはまる言葉で呼ばれるとしたら、あなたのニックネームは何になるでしょうか。

教会福音讃美歌 213 神の国と神の義を

祈り お父様、私たちがあなたと、あなたのみこころを求める時、全ての良いことはあなたから来ることを覚えます。私たちはあなたを礼拝し、ほめたたえます。私たちはあなたに従う者として知られたいです。私たちを救って下さり、めぐみを注ぎ続けて下さり感謝します。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ヒューストン／ジョー・バーネット



2月22日(日)

神様に全き信頼を置いていますか

聖書朗読 使徒の働き 12:11~18

ところが、ペテロの声だとわかると、喜びのあまり門をあけもしないで、奥へ駆け込み、ペテロが門の外に立っていることをみなに知らせた。彼らは、「あなたは気が狂っているのだ」と言ったが、彼女はほんとうだと言い張った。そこで、彼らは、「それは彼の御使いだ」と言っていた。

使徒 12:14~15

私たちは心から天の父なる神様が祈りに答えて下さると信じていますか。疑いつつ祈ってはいませんか。ヤコブは、少しも疑わずに、信じて願うように教えています。『疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。そういう人は、主から何かをいただけると思ってはなりません。』(ヤコブ 1:6~7)

今日の聖書箇所でも、教会の人々は集まって、ペテロが牢から出られるように祈っていました。彼らは信じて願っていたのでしょうか。そうだとすれば、門を開けると、そこにペテロがいた時、どうして驚いたのでしょうか。ペテロが入口の戸をたたき続けたので、彼らは門を開きました。そして非常にびっくりしました。私たちが祈る時に本当に信じて祈っているかを考えさせられます。

一方、ダビデはこう記しています。『私が、神に呼ばわると、主は私を救ってくださる。夕、朝、真昼、私は嘆き、うめく。すると、主は私の声を聞いてくださる』(詩篇55:16~17)。ダビデは全き信仰で神を求めています。

私たちが疑いつつ祈るならば、イエス様は、『信仰の薄い者たちだ』(マタイ8:26)と仰ります。私たちは、神様が私たちの祈りに必ず答えて下さることを確信して祈り、すでに祈りが聞かれたと信じ喜びましょう！

讃美歌 310 しづけきいのりの

祈り 愛する主よ、私が弱い時に力を与えて下さい。私が疑り深い時にあなたに全き信頼を置くことが出来ますように。周りのすべてのものが反対のことを示していても、あなたを信じ抜く信仰を与えて下さい。あなたのお導きを求め、あなたが必ず答えて下さることを信じて、常に誠実に祈ることが出来ますように。イエス様の御名によって。アーメン。

ケンタッキー州 マウント・ワシントン／コニー・シンプキンズ・トーマス